



7月17日(金曜日)

月/水/金 発行

「終活」サービス 東北の企業続々 タブレットで相談など

【仙台】生前に葬儀や墓の準備をする「終活」が広がっているのを受け、東北の企業各社が、タブレット端末による葬儀相談や墓地管理など、新たなサービス提供に乗り出している。

東北の大手葬祭会社、清月記(仙台市)は2015年度から社員へのタブレット端末配備を本格化した。葬儀の進行役などを務める「ディレクター」20人と直営の葬祭場の分を合わせて計約50台を導入、生前に相談に来る人にイメージを伝えやすくする。

ソフトウェア開発会社、インフォテリアのコンテンツ管理ソフト「ハンドブック」を採用し葬儀の祭壇の飾り方や棺(ひつぎ)の種類、料理などをタブレットで見せ、単価の上昇や成約率

の向上につなげ、仙台市内で現在25%程度のシェアを、3年後には30%まで引き上げる狙いだ。

公益財団法人アタラクシア(仙台市)が運営するみやぎ霊園(同)は5月から、墓地管理サービス「墓託(はかたく)」を始めた。財団が委託を受けて最長30年管理する。お彼岸とお盆に墓地进行清掃し花を供えるなどのサービスがある。30年経つと墓石を解体し遺骨は霊園の永代供養墓に改葬する。料金は3・3平方メートルで20年間の管理サービス付きで約80万円など。

ITベンチャーの百戦錬磨(仙台市)は4月、岩手県遠野市のNPO法人や寺院と共同で樹木の下に遺骨を埋葬する「樹木葬」を始めた。寺院が購入した広葉樹林の中に埋葬する「里山自然葬」と、埋葬場所に樹木を植える「千年樹木葬」の2種類あり里山自然葬が2万〜30万円、千年樹木葬が58万円から。既に数十件の問い合わせなどがあった。収益は同社と寺院、NPO法人で分配する。2〜3年後に少なくとも数千円の売り上げを見込んでいる。